



庄司さん(写真中央)を笑顔で囲む、元気いっぱいな母校の生徒たち。活躍する先輩の姿を間近で見てどんな思いを抱き、どんな夢に向かっていくのでしょうか。



藤田さんが子どもたちに願うことは、「夢や目標のために頑張ってもらいたい」「いつか地元で暮らしてほしい」。



菊地さんをはじめとする若い世代が中心となり、約60年ぶりに復活させた高林寺夏祭り。若者の頑張る姿が地域を活気づけ、たくさんの笑顔を生み出しています。



今回取材したのは、このまちにUターン就職した社会人と、今後地元就職やUターン就職を予定している学生の皆さん。活動分野は違っても、それぞれがこのまちで夢や目標に出会い、「このまちで頑張りたい」という熱い思いを持って行動しています。高校卒業に合わせて、約9割の若者が地元を離れていく那須塩原。しかし、その一人一人がこうした熱意を持ち、さまざまな経験を積み重ねて戻ってきたとしたら、それはかけがえのない財産になるのではないのでしょうか。

これから社会に巣立っていく若者がのびのびと挑戦できるまち、「いつか帰ってきたい」と思えるまちであり続けるためには、このまちに住む私たちから「いつでも帰っておいで」「応援しているよ」というメッセージを発信し続けることが大切です。

「頑張る人を応援するまち」であり続けたい

2人とも、将来や地元のことをとてもしっかり考えていますね



さまざまな世代の人と話せて、勉強になります



2人の話を聞いて、「私も頑張りたい」と思いました



**庄司** 授業を手伝っていて気付いたのは、学校と地域の連携や、学校と教育委員会のつながりの強さです。また、このまちの良さは、子どもが育ちやすい環境や、人の温かさだと思います。例えば、私は小学生のころからバレーボールを続けてきましたが、関東大会や全国大会に出場したとき、地域の皆さんが自分のことのように喜んでくれたのを覚えています。

**菊地** 地域のお祭りなどで温かい言葉を掛けてもらえたときに、やりがいを感じます。庄司さんの言うとおり、私もこのまちには温かい地域性があると感じていて、何かに挑戦しようとしたときに応援してくれる大人や「一緒にやろう」と言ってくれる仲間が多いと思っています。

**藤田** 生まれ育ったこのまちで商売をしているので、知り合いが来店してくれるのがうれしいですね。しかし、「地元に戻ったから終わり」ではなく、新しいものを取り入れることの大切さを実感しています。

やりがいや気付き、まちの魅力は何ですか

**庄司** 将来は中学校の教師として、このまちの子どもたちのために尽くしたいと考えています。一人一人の可能性を引き出し、さまざまな分野で活躍する子どもを増やせたらうれしいです。

**藤田** このまちには、生産量本州一を誇る生乳をはじめ、良い食材がたくさんありますが、「那須塩原に来たらこれを買おう」というお土産菓子がまだまだ少ないのが現状だと思います。私も、地元の牧場と協力して新しい商品作りに挑戦しているところですが、今後もまちの看板になるようなお菓子を作りたいです。

**菊地** 高校を卒業した後は、大学に入って社会福祉士の資格を取り、困っている人の助けになりたいと考えています。また、若者にこのまちの面白さを伝えられる場を作り、地元に着用を持つ人や「帰りたい」と思う人を増やしたいです。大人の皆さんにも、若い世代の挑戦をぜひ応援してもらえたらと思っています。

このまちで叶えたい夢を教えてください

### あなたの夢を応援しています

💡 地元で働きたいので、どんな企業があるのを知りたい！

市の企業紹介ホームページでは、市内企業の事業内容や特色などを見ることができます。

また、広報なすしおばらに隔月で掲載している「ものづくり若人」(最新号は2月20日発行の3月号・30ページ)では、市内の製造業で働く先輩たちを紹介しています。



💡 地元に戻りたいと考えている家族や友人の力になりたい！

市移住促進センターでは市内のさまざまな情報を紹介し、このまちへの移住をサポートします。

▶ 問い合わせ  
市移住促進センター  
☎0287(73)5742  
(大原間西1-11-10 市民活動センター内)

